

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	合同会社ハートライン I Le 糸満ちゆらさん			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 12日		～	2026年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 12日		～	2026年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別による関りや専門的知識の共有	個別による関りや専門的知識を、記録やミーティングを通して職員間で共有している。また、職員が専門職の視点を踏まえた支援を行えるよう、関わり方のポイントを具体的に整理し、日々の支援に取り入れている。	今後は共有内容の定期的な見直しや、専門職からの助言を取り入れる機会を増やし、より実践的で統一性のある支援の充実を図れるように努めていく。
2	食育への取り組み	食事提供を行う中で、様々な食材に触れる機会を大切にし、食への興味・関心を育む支援に取り組んでいる。食材の色や形、においなどを感じられるよう工夫しながら、一人ひとりの発達段階や特性に応じて、無理なく食に関われるよう配慮している。	食材に触れる・選ぶ・簡単な調理に関わるなどの体験を段階的に取り入れ、主体的に食に関われる機会を増やしていく。また、季節や行事に応じた食材の活用や、視覚的に分かりやすい提示(写真や実物提示)を工夫し、理解と興味を深める。
3	定期的な相談会の開催	相談できる機会を設け、地域に開かれた支援に取り組んでいる。相談しやすい環境づくりを大切にするとともに、発達や子育てに関する悩みに対して丁寧な情報提供や助言を行い、必要に応じて関係機関へのつなぎも意識して実施している。	継続的な地域支援を取り入れる為、今後も相談会の場を設けられようにしていく。また、クリニックや関係機関との連携体制等を職員間で情報共有しながら支援の向上に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けの研修会や情報提供の発信	言語聴覚士や作業療法士の個別訓練は取り組んでいるが、保護者向けの研修会の場を設けていないのが要因である。	今後、専門職による研修会の場を設けたり、保護者が閲覧できるよう専門職による動画作成の検討を行う。
2	保護者同士の交流会	行事等で保護者同士の関りが持てる場を設けてはいるが、回数が少ないためなかなか交流を持つ機会が少ない。	年度初めに保護者会を用いたり、保護者主催型の行事等を取り入れたたりし、交流できる場を増やしていけるように努めていく。
3	専門分野の職員による個別訓練の情報提供	言語聴覚士・作業療法士の個別訓練の視点を支援に取り入れているが、専門職が常駐していないため、情報共有が間接的になりやすい状況にある。	専門職からの助言内容についても共有できる仕組みを整え、職員間での共通理解を深めるとともに、家庭でも取り入れやすい形での発信を工夫していく必要がある。